

2025年1月大学入学共通テスト対策を考える
 — PISA 型学力に向けて読解力・読解力・読解力の育成を !! —

私塾界、創刊 500 号おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

開倫塾

塾長 林明夫

Q : 11月9日に大学入試センターから2025年1月実施予定の「大学入学共通テスト、試作問題」が公表されましたね。

A : (1)はい。大学入試センターのHPを検索すれば、11月9日に公表されたすべての「試作問題」をダウンロードすることができます。

(2)この2025年度実施分から再編される「大学入学共通テスト」の「各教科の試作問題」の「傾向」は、その後の「大学入学共通テスト」に大きく影響します。

(3)それだけでなく、「大学独自入試問題」「高専入試問題」「私立高入試問題」「公立高入試問題」「私立中入試問題」「公立中高一貫校適性検査」にも順次大きく影響すると思われます。

(4)ですから、学習塾・予備校・私立学校で教えるすべての先生方は、公表された全教科の「試作問題」をすべて「プリントアウト(印刷)」し、今教えている児童・生徒にどのような対応をしたらよいかを、ご自分の力で教えになることをおすすめします。



Q : 小・中・高校で、まず第一にしなければならないことは何ですか。

A : (1)本年2022年1月の「大学入学共通テスト」でも見られましたが、各教科とも「問題文」や「設問」など「入試問題」の分量がかなりの量になりますので、試験時間内にすべて「読み解く力」、つまり、「読解力」が求められます。

(2)例えば、「歴史総合、日本史探究」の「大学入学共通テスト」試作問題のページ数は39ページです。「歴史総合、世界史探究」の試作問題は40ページあります。「情報」のサンプル問題は18ページですが、新書版なら40ページの分量です。「数学I・数学A」は読み解く問題が多く22ページ、新書版なら40ページの分量。

(3)「国語」は資料を根拠にまとめる問題も含め14ページ、新書版なら40ページくらいの分量です。「言語としての国語」の問題に大きくシフトしているようです。

(4)そこで、高校生はもちろんのこと、小学生、中学生のうちから本を1時



間に 30 ～ 40 ページを目安に、読み解くことを目指してご指導いただきたく希望します。

Q : 「内容」はどのような傾向と考えますか。

A : (1) 2000 年から 3 年ごとに OECD で進めている PISA (15 歳児を対象にした国際標準の学力調査) にどんどん近づいているように思われます。

(2) PISA 調査が目指す国際標準の学力観である「キー・コンピテンシーズ」を具現化するような出題と考えられます。

(3) ですから、2025 年から大編成される「大学入学共通テスト」に真正面から対応する「進学指導」を目指す小学生・中学生・高校生を指導するすべての先生方は、もう一度、OECD での PISA 調査の基本となる「キー・コンピテンシーズ」を「学び直し」「リスキリング」をお図りになることをおすすめいたします。



Q : 「キー・コンピテンシーズ」とは何ですか。

A : (1) 改めて言うまでもないかと思いますが、OECD が 2000 年から 3 年ごとに行っている PISA 調査の根底となる学力観 (国際標準の学力とは何か) について大研究が行われた研究成果です。OECD 加盟国が合意した国際標準の学力観です。

(2) 日本政府は OECD の第 2 の抛出国として文部科学省は、日本国を挙げてこの調査・研究に最も熱心に協力。日本ほど PISA 調査の研究成果を重視、国家としての「教育政策」に活用している国はありません。

(3) 10 年ごとの学習指導要領の改訂の際にも OECD での PISA 調査の研究成果と、PISA 調査の根底となる国際標準の学力観である「キー・コンピテンシーズ」を教育改革の前面に押し出し、全国展開。今回の 2025 年からの「大学入学共通テスト」問題再編にもその成果を生かそうと、最大の努力をしています。



Q : 「公立中高一貫校適性検査」が PISA 型になってきているということですか。

A : (1) その通りです。「公立中高一貫校適性検査」から PISA 型学力に向けて「イノベーション」が始まりました。2025 年からの「大学入学共通テスト」も PISA 型の国際標準の学力に向けての「イノベーション」と言えます。

(2) この後、「大学独自テスト」「私立高入試」「公立高入試」でどんどん PISA 型の国際標準の学力に向けての「イノベーション」がすすみます。

(3) 大学や高校での「反転学習」「アクティブラーニング」、高校での「探究型学習」「公共の時間」なども、PISA 型の国際標準の学力に向けての「イノベーション」です。



Q : 学習塾・予備校・私立学校の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1) そうは言っても、従来の教科書内容の授業でのていねいな「理解」と授業後の「復習」による「理解」の促進、家庭学習、自学自習として「定着 (音読練習・書き取り練習・計算練

習)」を図ることは、基礎・基本の学習として避けることはできません。

(2)授業中のていねいな指導と「予習」「復習」「定着」のための「学習方法」の「伝授」は是非、今まで以上に行っていただきたくお願いいたします。

(3)これに加え、全教科とも膨大な分量の問題文を試験時間内に正確に読み解かなければなりませんので、「読解力」の育成を怠らないようお願いいたします。

(4)「辞書・新聞・読書・図書館」に慣れ親しみ、それらを活用することを「学習習慣」にさせていただきたく心から希望いたします。今ほど「辞書教育」「新聞教育(NIE、教育に新聞を)」「読書教育」「図書館活用教育」の重要な時期はないと確信いたします。



Q：最後に一言どうぞ。

A：僭越ですが、今月も、先生方がお読みになれば必ず参考になる本を、ご紹介させていただきます。

(1)1冊目は、OECD 編「キー・コンピテンシー、国際標準の学力をめざして」明石書店 2006年5月31日刊です。

○本書を含め、OECD の調査・研究の報告書は、慣れないと読みにくいとは思いますが、しかし、一行一行、一章一章、大学で講義を聞くような真剣さで2～3回読むと、極めて意義深い内容の集積であることがおわかりになると、確信します。



(2)2冊目は、立田慶裕著「キー・コンピテンシーの実践—学び続ける教師のために」明石書店 2014年3月28日刊です。立田先生は、国立教育政策研究所総括研究官として1冊目の「キー・コンピテンシー」の監訳をなさいました。「PISA 調査」と「キー・コンピテンシー」の日本の責任者のお一人、立田先生の御著書は、極めて示唆に富みます。

○これに加えて、立田慶裕著「生涯学習の新たな動向と課題」放送大学振興会 2018年3月20日刊では、「21世紀を生きる—キー・コンピテンシーズ」が、生涯教育の観点から見事に展開されています。



○OECD 教育研究革新センター編著立田慶裕監訳「学習の本質」明石書店 2013年3月27日刊、同編著立田慶裕監訳「知識の創造・普及・活用—学習社会のナレッジ・マネジメント」明石書店 2012年3月30日刊など一連のOECD の著作は、すべて「PISA 調査」「キー・コンピテンシー」の具体的展開です。是非、少しずつでもお読みください。

(3)3冊目は、ユーラシアグループ代表のイアン・ブレマー著「危機の地政学 感染爆発、気候変動、テクノロジーの脅威」日本経済新聞社 2022年10月3日刊です。2020年2月に始まった新型コロナウイルスの世界的感染、2022年2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻が、世界の人々にもたらした影響は計り知れません。しかし、そのような中でも、日本はもちろん世界の人々は日々の生活を続け、仕事・事業を継続し、社会を正常に機能させなければなりません。そのためには何をどう考えたらよいか。自分のこととして考えましょう。



- (4)4冊目は、米国プリンストン大学教授、ヤン=ヴェルナー・ミュラー著「試される民主主義 20世紀ヨーロッパの政治思想(上)(下)」岩波書店 2019年7月26日刊です。同氏の最新著「民主主義のルールと精神—それはいかにして生き返るのか」みすず書房 2022年刊を読む前に、是非、本書をお読みください。同氏の名著「ポピュリズムとは何か」と3冊合わせて読み、「アメリカ」「中国」「ロシア」、そして、「日本」のポピュリズムを考えたく思います。
- (5)5冊目は、法政大学名誉教授、矢作敏行著「コマースの興亡史—商業倫理・流通革命・デジタル破壊」2021年10月6日刊です。学習塾・予備校・私立学校の経営には、矢作先生が本書でご紹介くださった「チェーンストア理論」の大部分が、すべてお役に立つと確信します。
- (6)6冊目は、萩原朔太郎著「恋愛名歌集」岩波文庫、岩波書店 2022年6月22日刊です。詩人、朔太郎が「万葉集」「古今集」「六代歌集」「新古今集」から選んだ「恋愛歌集」。しみじみとした名著です。高木卓著「(幸田)露伴の俳句」講談社学術文庫、講談社 1990年4月10日刊と合わせて読むと、日本の文学者・文豪の知性の高さ、教養の深さがよくわかります。是非、ご一読ください。



2022年11月11日(金)